

特別公開9

徳融寺観音堂

(とくゆうじかんのんどう)



①歴史・概要

徳融寺は、前身は元興寺の境内にあった観音堂、もしくは、念仏道場だったとも伝えられています。室町時代の罹災により、現在地に移され、天正18年(1590)に融通念仏の檀家寺院として復活したと伝わります。現在は、寛文7年(1667)に再建された本堂に、北条政子の念持仏であったと伝わる鎌倉時代の木造阿弥陀如来立像が祀られています。

徳融寺は伝説の地でもあります。この地が徳融寺となる以前、さかのぼること天平時代、この場所は平城京の六坊大路、藤原不比等の孫である藤原豊成の邸宅があったといわれています。藤原豊成といえば、娘の中将姫の伝説で有名です。當麻曼荼羅を織り上げ、生きながら往生をとげたとされる中将姫が生まれ育ったのがこの奈良町だといわれています。

天平19年(747)に生まれた中将姫は、5歳で実母と死別します。その後、豊成公は後妻の照夜の前を迎えますが、照夜の前は実子豊寿丸を得て、先妻の子である中将姫につらく当たるようにあります。壮絶な継子いじめの場所だと伝わっているのが、豊成の邸宅だったこの徳融寺です。背後から突き落とされたといわれる「虚空塚」、盗みの濡れ衣を着せられて、松に体を括り付けられ、青竹内の折檻を受けたとされる「雪責松」など、当時の面影は残っておりませんが、この地に来るとその様子が偲ばれるでしょう。

②見どころ

徳融寺の観音堂の裏には、中将姫と豊成公の宝篋印塔があるほか、観音堂に祀られている本尊は、赤子を抱かしている独特な姿の子安観音立像です。中将姫伝説に思いを馳せながら、ぜひ観音堂を拝観ください。

また、徳融寺の近隣には、一般公開はされていませんが、産湯の井戸を伝える「誕生寺」、写経に励んだとされる「高林寺」、出家を決意したとされる「安養寺」など、中将姫ゆかりのお寺があります。

一風変わった石造物

境内では一風変わった石造物が見られます。帝国憲法と記された筒を持った「吉村長慶」の像です。吉村長慶は幕末に奈良町に生まれ、昭和初期にかけて活躍した人物です。佐保川に橋を掛けたり、奈良町の至る所に変った石造物を建てたという逸話があります。境内には、長慶像のほかにもユニークな石造物があります。